

伊豆半島ジオパーク推進協議会が

地域 ESD 活動推進拠点(地域 ESD 拠点)として登録されました

◇ESD とは？

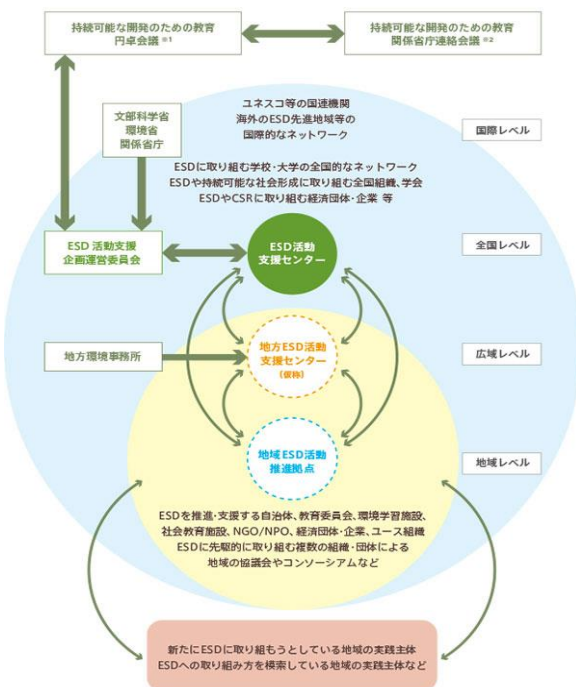
ESD は「持続可能な開発のための教育」と訳されています。現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。

ESD とは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくためにこれらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくことを身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育なのです。



足元の大地の成り立ちから、そこに生きる動植物の ESD の基本的な考え方(文部科学省 HP より)姿、人々の歴史の関係を見つめなおし、地域の産業や環境保全・防災・国際交流について考えるジオパーク学習を ESD の理念にのっとって進めていきます。

◇地域 ESD 活動推進拠点とは？



主体は文部科学省・環境省となります。

目的は持続可能な社会の実現に向けて活動する団体への支援やその推進を担うものです。

具体的な行動としてはESD活動センターをハブとしてESD推進のネットワークを立ち上げ、学校・NPO・企業など様々な団体との連携を図っていきます。

地域ESD活動推進拠点とはその中核的な役割をもつものです。

伊豆半島ジオパーク推進協議会では登録により自らの地域だけでなく、全国との交流や意見交換を積極的におこない、各団体が直面している課題の克服や、ESDへの取り組みの発展に活用していきたいと考えています。

皆様と共に地域ESD活動の推進に取り組んでいきますので、お気軽に声をおかけください。

地域 ESD とは (ESD 活動支援センターHP より)



自分たちの住む網代にもあったよ！ ジオサイト

6年生理科「大地のつくり」を学習する中で「教科書のような本物の地層を見てみたい！触ってみたい！網代にはないのかな…。」という子どものつぶやきがあり、何とか体験させてあげたいという思いから実現しました。網代には、網代小学校から歩いて20分のところにジオサイトの一つ「立岩」と「屏風岩」がありますが、海岸の岩場に降りるため、担任だけで連れていくにはやや不安がありました。そこでジオパークの方にフィールドワークをお

願いすると、出前授業と合わせて魅力的なプログラムを組んでくださいました。まず、網代の町が多賀火山の噴出物「スコリア」の上にあること、マグマが地下を通っているため、温泉の町であることをスライドで学び、コーラの実験で噴火の威力を体感しました。

2つ目の実験はラー油のマグマがゼラチンの大地の裂け目を上っていく様子の観察でした。子どもたちはその平らに広がりながら上がるマグマ（ラー油）を歓声をあげながらのぞき込んでいました。「この様子をよく覚えていてね。」という鈴木専門員のお話と現地でスコリア地層を岩脈が裂いて上がっていく崖の姿が一致した時の子どもの驚きはたいへんでした。「さっきのラー油がこの岩脈か。」「これがスコリア？穴が開いて軽いよ。」「赤と黒の地層になってるよ。」



鈴木専門員の説明に興味深々

「実験とそっくり。」「スコリアを破って出てきたんだね。」と、地層を手で触り体感しました。「地層に名前を付けてみよう。」と鈴木先生に投げかけられ、付けた名前が『蛇山杉太郎』。子どもたちはとても気に入っています。屏風岩は本当に薄く屏風のように10mの高さで海岸にそそり立ち、大迫力でした。子どもたちは大地の雄大さを体感するとともに、郷土網代に愛着を感じるフィールドワークとなりました。ドローンで空撮された網代の海岸線は、どこか南の国の美しい海岸のようで誇らしげでした。帰りの子どものポケットはスコリアでいっぱいでした。（文：熱海市立網代小学校 國原）



蛇のように見えたので『蛇山杉太郎』と命名
《編集後記》



あそこが屏風岩だよ

10月よりジオパーク教育担当となりました小野です。今回はESDに関する特集となりました。実際に学校に行き、児童・生徒に接していると、体験・経験をすることにより目を輝かせながら学習をしている姿を目にしました。教科を超えた「持続可能な開発のための教育」があると感じました。今後、多くの学校の学習に取り入れてもらえるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

※ 網代海岸のドローン映像は<https://www.youtube.com/watch?v=leW2U13zRLw>で見られます。